

組織現勢 (3月1日現在)

組合員数 22,048 世帯  
 出資口数 92,683 口  
 2月の新規加入 18 世帯  
 2月の増資口数 104 口

No. 348 再生紙を使用しています。

# 城南の保健

発行所  
**城南保健生活協同組合**  
 本部事務局 大田区大森東4-6-15-101  
 TEL (3762) 0266  
 振込銀行 さわか信用金庫大森支店  
 口座(普) 0469459  
 発行 「城南の保健」編集委員会  
 毎月1回発行・定価1部 30円



兄から妹へリレー

4日前に降った雪の影響でコースコンディションが心配されましたが、大会当日は曇り空。少し肌寒い天候でしたが、17チーム68人の参加で、タスキをつなげました。

最後はランナー、応援団、スタッフ全員で記念撮影。今年も楽しい大会になりました。

## 第2回早春駅伝フェスティバル 17チーム全員完走!

3月4日 (日)



みんなで記念撮影

### 第2回早春駅伝フェスティバル結果

順位	タイム	チーム名
1	39分44秒	ハードラン (みさと協立病院)
2	43分39秒	大田病院院長チーム
3	43分49秒	チーム・サダム (大田病院)
4	44分50秒	なんブー men (東京南部法律事務所)
5	44分58秒	大田病院副院長チーム
6	46分49秒	混成・うめ (東京南部生協・城南保健生協)
7	47分43秒	A b e b e (病体生理研究所)
8	48分01秒	木村でございまーす (東京南部法律事務所)
9	48分15秒	混成・目指セフルマラソン
10	49分43秒	大田病院に就職します
11	50分55秒	ソフトラン (みさと協立病院)
12	50分56秒	三ツ木診療所グループ
13	51分19秒	アコンカグア目指隊 (病体生理研究所)
14	51分22秒	やまいろ (城南保健生協組合員)
15	56分05秒	なんブーレディース (東京南部法律事務所)
16	58分19秒	大田歯科
17	62分08秒	混成・さくら



トップでゴール



タスキをリレー



緊張のスタート



全員の健闘をたたえて閉会式



志津川病院 (宮城・南三陸町)

1年前は雪が降り凍えるほど寒い日だったのが、今年は晴れた。

### 1年が経って...

私は「流されて工場の梁に飛びつき一晩中がみついていた。家族の様子がわからず寒さと真つ暗闇に絶望。余程『手を離し楽になろう』と思ったことか」「うちのやつが流されたんだ...」一緒に金網につかまっていた知り合いが力つき流されて行った。なにもできなかった自分が悔しく、そのことで苦しい日々をすごした。など、みなさんの言葉を思い出していました。

2012年3月11日午後2時46分、石巻市内にサイレンが鳴り、全市が1分間の黙祷に入りました。

2011年3月11日午後2時46分、東日本を襲った巨大地震と津波から1年が経ちました。昨年5月から現地ボランティアとして度々支援活動を行っている、組合員の山本昌平さん(大田区石川町在住)に被災地の現状をお聞きしました。

## 東日本大震災から1年

1年を経て、街は落ち着きを見せつつありますが、気仙沼では大型船が陸にうち上げられたままです。志津川病院の2階にも船が乗ったまま。どの浜、沿岸部にもガレキや車が大量に積み上げられ、住まいや生活再建の方向はほとんど見えていません。対応が遅い政治への怒りは募っています。



南三陸町防災センター

### 復興へ

こうした中、復興に向けて市民の新しい行動と連帯がいま広がっています。また「バザーで顔見知りできた、自治会があればもっといいのだが」との対話も出発点となって、仮設住宅自治会が誕生。2月現在16の仮設住宅自治会による自治会連合会も結成されています。

まだまだ地元のみならず全国が力を合わせた息の長い、ねばり強いとりくみが求められています。神戸や中越の経験を生かした復興へのさらにスケールの大きな行動へ発展することを願って、私も気仙沼、南三陸、石巻、東松島、登米を駆け巡っています。



震災復興・なくせ原発3・11 行動 in 東京

1年を経て、街は落ち着きを見せつつありますが、気仙沼では大型船が陸にうち上げられたままです。志津川病院の2階にも船が乗ったまま。どの浜、沿岸部にもガレキや車が大量に積み上げられ、住まいや生活再建の方向はほとんど見えていません。対応が遅い政治への怒りは募っています。

## 腹八分

東日本大震災・福島原発事故から1年が経過しました。「1年がたつて何が変わったや」「何にも変わってねえな」「復興が見えるようになってけねえか!」こんな被災地の痛切な声が届きます。生きてゆくべく生業が失われたままです。寒気の襲う仮設住宅では、風呂で十分に体を暖めることができず、暖房には制限があり毛布や衣類を重ねて寒さをしのいでいるのが現実です。被災地ばかりでなく、城南の街にも多くの人が寒さに耐えています。かつては歩いて行けるところに銭湯があったのに、相次ぐ廃業・閉鎖で、自転車を利用できない高齢者の中にはバスを利用している銭湯通いも余儀なくされています。古い木造アパートには風呂の設備のないところもあります。加えてガス・石油による暖房が制限され、電気暖房に頼らざるを得ません。銭湯の利用も困難。電気では体が暖まらず眠れない。被災地の方々とともに、身近なところにも救援を待つ人々がい

ます▼野田政権は「社会保障と税の一体改革大綱」を閣議決定しました。その内容は社会保障を削り、いっそう国民に自立自助を強いるものであり、そして消費税の増税で低所得者からも容赦なく税を吸い上げる改悪であり、社会をさらに冷え込ませてしまつたのです▼被災地からの声は続きます「消費税を上げる前に、年金を切り下げる前にやることがあるんでねえか!」銭湯難民だって叫びます「風呂を返せ!」「あつたかい夜を返せ!」。この叫びは陳情となって議場に突きつけられました。